

第 3 回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時：平成 21 年 3 月 18 日（水） 午前 10 時 00 分

場所：男鹿市役所 3 階第一会議室

第3回男鹿市地域公共交通活性化協議会

平成21年3月18日(水)

午後2時00分～午後3時00分

市役所3階第一会議室

出席委員(16人)

会 長	木 村 一 裕			
副 会 長	伊 藤 正 孝			
1 号 委 員	貝 田 裕	二 田 良 英	三 浦 源 蔵	
	齊 藤 芳 博	佐 々 木 明	鎌 田 栄 三	
5 号 委 員	齊 藤 登	飯 澤 信 夫	石 垣 禮 之 輔	
	石 黒 茂 雄	高 桑 繁	鈴 木 俊 治	
6 号 委 員	大 森 勝 美	安 田 健 次 郎		

代理出席(5人)

(委 員 名)

(代 理 者)

副 会 長	大 高 秀 雄	武 田 邦 重
1 号 委 員	大 滝 和 彦	佐 藤 幸 彦
2 号 委 員	保 坂 啓 一	眞 柄 幸 治
5 号 委 員	仲 村 盛 吉	岩 谷 三 男
	仲 村 英 典	佐 藤 律 子

欠席委員(5人)

3 号 委 員	佐 藤 正 美		
4 号 委 員	諸 橋 磯 光	下 村 直 樹	山 本 次 夫
5 号 委 員	佐 々 木 一 義		

出席事務局職員

- ① 総務企画部長 板 橋 継 喜
- ② 企画政策課長 下 間 秀 春
- ③ 企画政策課課長補佐 原 田 良 作

委託業者(福山コンサルタント秋田事務所)

- ① 課 長 伊 東 成 一
- ② 課長補佐 倉 成 秀 幸

第 3 回 男鹿市地域公共交通活性化協議会総会

日時：平成 2 1 年 3 月 1 8 日 午前 1 0 時から

場所：男鹿市役所 3 階 第 1 会議室

次 第

1. 開 会

2. 報告事項

(1) 平成 2 0 年度事業の経過報告について 資料 1

(2) 事後評価に対する東北運輸局の二次評価について 資料 2

3. 議 事

(1) 議事録署名委員の選任について

(2) 男鹿市公共交通総合連携計画（案）について 資料 3

(3) 平成 2 1 年度事業計画（案）について 資料 4

(4) 平成 2 1 年度収支予算（案）について 資料 5

4. そ の 他

5. 閉 会

午後 2 時 00 分開会

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

それでは、ご案内の皆様お揃いになりましたので、ただいまから、男鹿市地域公共交通活性化協議会総会を開催させていただきます。

次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、会長よりごあいさつをお願いいたします。

○ 木村会長

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日の議事でございますけれども、「男鹿市公共交通連携計画（案）」について昨年度が策定作業を行っておりますがその案についてと、平成 21 年度の事業計画と収支予算案ということで、3 つの案件について審議していただくこととなっております。皆様の活発なご発言を期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

これ以降の進行については報告事項、議案等ありますけれども、木村会長よりお願いいたします。

○ 木村会長

それでは、次第 2 番目の報告事項、事務局から(1)の平成 20 年度事業の経過報告について事務局よりご説明いたします。

○ 事務局 原田

事務局の原田であります。報告事項の(1)の、平成 20 年度事業の経過報告からご説明いたします。説明が長くなりますので、座ってご説明させていただきます。

資料につきましては事前に配布しておりますので、そちらをご覧ください。

なお、机の上の配布いたしました資料ですが、資料 2「事後評価に対する東北運輸局の二次評価について」につきましては、東北運輸局からの通知文書を加え資料を再度作成し、差替え分としてお手元に配布しております。資料 3 の説明資料という両面印刷の資料がございますが、これは、男鹿市公共交通総合連携計画（案）の説明の中で新旧対象表として使用させていただきたいと思っております。

それでは、資料 1 に基づきまして、平成 20 年度事業の経過報告についてご報告を申し上げます。

まず、前回総会以降の経緯ということになりますけれども、平成 20 年 10 月 8 日に開催されました前回総会以降、今回総会までの経過についてご説明を申し上げます。

資料 1 をご覧下さい、まず、平成 20 年 10 月 8 日に第 2 回男鹿市地域公共交通活性化協議会総会を開催しました。この中では、収支予算の変更、男鹿市公共交通総合連携計画検討案の説明等を行っております。

さらに 10 月 29 日から 11 月 6 日まで、市内 12 会場で連携計画検討案に基づく今後の男鹿市の公共交通体系について説明会を開催しております。説明会には 268 名の参加がありました。活発な意見交換がなされております。

11 月 1 日の市広報には、連携計画検討案の概要を掲載しております。市民の皆様からご意見を募集いたしました。残念ながらご意見の申し出はございませんでした。

11 月 12 日には、庁内関係課長からなる庁内検討会を開催して、連携計画検討案の内容について協議いたしました。

11 月 12 日から 12 月 12 日までの 1 ヶ月、市のホームページに連携計画検討案を掲載いたしました。この際も市民の皆様からご意見を募集いたしましたが、残念ながらご意見の申し出はございませんでした。

12 月 10 日には、12 月定例会総務委員会に連携計画検討案の概要を説明しております。

12 月末には、これまでの説明会や市議会等からの意見を基にいたしまして検討案を修正して、連携計画素案という形で取りまとめました。

年が明けまして、平成 21 年 1 月 16 日には市の関係課長からなる庁内検討会を開催し、連携計画素案の内容について協議をいたしております。

1 月 26 日には、活性化協議会の幹事会を開催いたしまして、連携計画素案について協議しております。

1 月 30 日には、市議会臨時会の後、総務委員会に連携計画素案の内容を説明し協議をいただいております。また、同日付けで、東北運輸局長あてに今回の補助事業であります計画策定調査事業の事後評価表を提出しております。

2 月 5 日には、これまでの素案の内容検討結果を反映した、連携計画素案および収支試算（抜粋版）をコンサルタントから作成いただきました。住民説明会の質疑一覧、さらには東北運輸局に提出した事後評価表の写し等を協議会委員の皆様を送付いたしまして、内容を確認いただいております。

また、同様の連携計画素案を東北運輸局に事前に送付いたしまして内容についてご

確認いただきました。その際、短期・中長期の各事業について項目ごとに実施主体を明記すること、あるいは連携計画は活性化法において市町村が策定することとなっているため、主務大臣へ提出の際は、策定者は男鹿市とするように、などの指導があったものであります。

2月16日には、市議会全員協議会において連携計画素案の内容を説明し協議いただいております。

また、3月2日には、1月末日付けで東北運輸局長に提出いたしました事後評価について、東北運輸局長より事後評価に対する二次評価通知をいただきました。内容については、この後ご報告いたしたいと思います。

3月3日には、これまでの素案に対する意見や東北運輸局のご指導等を反映して「男鹿市公共交通総合連携計画（案）」として取りまとめております。

3月9日には、3月定例会総務委員会に連携計画（案）を提示し内容を説明いたしております。

3月13日には協議会幹事会を開催いたしまして、連携計画（案）を含む本日の議案件について事前に内容を協議いただいております。

以上の経過を踏まえまして、本日協議会総会開催の運びとなっております。

以上が、ざっとご説明を申し上げましたが第2回協議会総会以降の、平成20年度事業経過報告についてであります。

なお、前回10月8日付けでご協議いただきました事業計画では、12月末頃をめどに協議会総会を開催する予定となっておりました。残念ながら連携計画素案の取りまとめが遅れたことなど色々な事情があり、今日まで総会を開催できなかったことを、この場を拝借いたしましたして皆様におわび申し上げたいと思います。

なお、総会のご案内にも記載いたしましたが、本日、本来であれば報償費・旅費等この現場でお支払いするところですが、補助金入金までお支払いできませんので、あわせておわび申し上げます。

以上で経過報告を終わります。よろしくお願いいたします。

○ 木村会長

ありがとうございます。10月8日の第2回の協議会総会以降の経緯についてご説明いただきました。かなり色んな作業を行って総会を入っていることがわかります。何かご質問等はございませんでしょうか。

地域説明会の参加者 268 人というのは大変多いと思うが、意見募集するとなかなかいいというのは地域の中で意見が取れているという感じでしょうか。

○ 事務局 原田

どちらかというと、直接、企画政策課のほうに意見を述べることに抵抗があったのかなとは思いますが、他の方法もございませんので、市広報あるいは市ホームページに連携計画検討案掲載して意見を募集という手続きを踏んだということであります。

○ 木村会長

ご質問ご意見ございませんでしょうか。

それでは、(1)の審議を了承いたします。次に、(2)の事後評価に対する東北運輸局の二次評価について事務局からご説明いたします。

○ 事務局 原田

次に、事後評価に対する東北運輸局の二次評価についてご説明を申し上げます。

事前に資料として送付いたしましたが、東北運輸局からの通知文書を最初に加えて新たに資料 2 としてお手元に配付しておりますのでご覧いただきたいと思います。

資料 2 でございますけれども、東北運輸局長からの通知文書がまず最初にあります。3 月 2 日付けで評価の結果をいただいております。その次のページからが事業評価内容であります。赤字で書かれておりますのが、東北運輸局の評価委員会で出された意見でありますので、黒字で書いてあります当協議会提出文書と併せてご覧いただければと思います。

詳しい内容につきましては、資料を事前にお配りしてありますので、詳細な内容につきましては、説明を省かせていただきますが、今回の事後評価につきましては、国の補助要綱に基づいて作成したものであります。今回の補助事業の内容である連携計画策定調査事業につきまして、策定経過や手続きについて連携計画策定調査の総合性・整合性、あるいは自立性・持続性、地域関係者の実質的な合意形成、など大きく 4 項目に渡って評価をするものであります。

資料の中身で申しますと、資料 2 の見開きのすぐ裏 2 ページ目ですが総合評価、次のローマ数字の 2 のところでは連携計画策定調査の総合性・整合性そういったものについての評価を記載しております。次に 3 ページ目になりますが、ローマ数字の 3 のところ

ですが、自立性・持続性についての評価の記載。最後に一番裏ですけれどもローマ数字の 4、住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成がどういうふうにされたか、そういった内容を記載することとなっております。内容をご覧くださいますとおおむね自己評価のとおりであるとの結果が得られたものと判断しております。

ただ、二次評価の中で議事録に関するところですが、一番後ろをご覧ください。ローマ数字の 4 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成の最後の方ですが、協議会における審議という項目がございます。この中で②協議会の議事が傍聴、議事録の公開等によって適切に開示されているか、という項目がございます。協議会の規約ですと、事務局に常に備え付けておくようにというような規約になってございますので、そのように記載いたしました。東北運輸局の二次評価におきましては、協議会終了後速やかに市ホームページ等で公表することという指摘がありました。公開して不都合は何も無いと思います。これまで 2 回の総会がございました。今後 1 回、全部で 3 回の総会が開催されますので、議事録が完成次第、市ホームページに議事録を掲載し公開していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で二次評価に関する報告を終わります。よろしくお願いいたします。

○ 木村会長

東北運輸局の二次評価につきまして何かご質問ございましたら。議事録について指摘があったということで、今後速やかにホームページに掲載していきたいということだと思います。議事録というのかなり分厚いものになりますね。

○ 事務局 原田

量的には大きくなりますが、PDF ファイル等で掲載しますので、ホームページに対する負荷はそれほどないと思います。2 月 20 日に開催しました第 1 回総会分と 10 月 8 日に開催しました第 2 回総会分の議事録が完成しておりますので、そちらから順次ホームページのほうに掲載していきたいと思っております。

○ 木村会長

ご意見等ございますでしょうか。ないようですのでこの報告につきましても、了承いたしましたと思います。

それでは、次第の 3 の議事に入りたいと思います。

まず最初に、(1)議事録署名委員の選任についてということでございますが、これについてお諮りしたいと思いますが。協議会規約第 20 条第 3 項により 2 名の議事録署名委

員を選出となっております。いかがいたしましょうか。

「事務局一任の声あり」

○ 木村会長

事務局一任の意見がありましたがよろしいでしょうか。では、事務局よりお願いいたします。

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

それでは、事務局の方からご議事録署名委員につきまして、北浦郷中会会長の石垣禮之輔様と建設課長であります三浦源蔵様からお願いいたしたいと思います。

○ 木村会長

ただいま事務局より石垣委員と三浦委員を推薦する声がございましたので、ここでお諮りいたします。両名を議事録署名委員とすることにご異議ございませんか。

「異議なしの声あり」

異議がないようですので、議事録署名委員は、石垣委員と三浦委員に決定いたしました。よろしくお願いいたします。

それでは、議事の２番、男鹿市公共交通総合連携計画（案）についてであります。これについて事務局から説明願います。

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

それでは、私のほうから「男鹿市公共交通総合連携計画（案）」についてご説明申し上げます。

皆様へ２月５日に素案を送付いたしましたところでありまして、その後さきほど原田からも説明がありましたとおり、東北運輸局の二次評価などによりまして、表現などについて改め、今回（案）としてご提案させていただいたものであります。

その内容について変わった点をご説明申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の資料３「男鹿市公共交通総合連携計画（案）新旧対照表」

と連携計画（案）をご覧願いたいと思います。

まず、表紙についてでありますけれども、「素案」を「(案)」といたしまして、策定年月を「2 月」を「3 月」といたすほか、提案者を「男鹿市地域公共交通活性化協議会」から「男鹿市」とするものであります。このことについては、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第 5 条において、「市町村は連携計画を作成することができる」とされており、素案までは協議会の提案ということでご協議いただいておりますが、主務大臣などへの報告においては、男鹿市となることによるものであります。

次の 2 ページをお開き願います。

素案では下段のグラフを「男鹿市：高齢化率」と掲載しておりましたけれども、「人口構成（平成 17 年国勢調査）」とさせていただき、平成 17 年国調をベースとしまして、若年人口、高齢者人口を国・県・市で比較できる表といたしたものであります。

次の 3 ページにおいては、3 行目の年間の観光客数でありますけれども、年間 250 万人を平成 20 年の実績に基づきまして 230 万人に、また、下のグラフについても、素案では観光客の推移を 17 年から 19 年といたしておりましたが、平成 18 年から平成 20 年の最新といたしたほか、月間の観光客数についても、最新の 20 年の実績値といたしたものであります。また、主な観光施設の利用者数につきましても同様としたものであります。

次に 7 ページをお開き願います。

1 行目の、素案では「支線バス路線が運行している」を（案）では「バス路線の運行形態が大きく変わる可能性のある」に文言を修正したものであります。

9 ページをお開き願います。

9 ページは表現を改めたものであります。

10 ページは、「目標を達成するために行う事業およびその実施主体」の最後に「事業の実施主体は市または交通事業者とし、需要面および採算面を考慮し、各輸送区間の運営・運行を以下のとおり分担します。」の文言を付け加えたものであります。

次に、4－1 短期事業計画、1）生活路線バス、（1）幹線輸送区間に「本市の基幹バス路線として、地域生活に欠かせない公共施設、フィーダー輸送との乗り継ぎ拠点および市域外への広域交通拠点である鉄道駅間を定期定路線型で運行し、市民生活の利便性確保に努めます。」の文言を加え、「交通事業者」を「バス事業者」に、その後に「(実施主体：バス事業者)」を加えたほか、「交通事業者が」を「バス事業者が実施主体となり」に変更するものであります。

次の「事業主体」を「実施主体」、その後に「(実施主体：男鹿市)」を新たに挿入して

おります。また、素案では「交通事業者での運行では採算性が低い」という文言を「採算性が低くバス事業者による運行が困難と」、それから「運営主体」を「実施主体」と変更しているものであります。

11 ページでは、フィーダー輸送区間に、「基幹バス路線が運行しない地域を対象に、各地域から幹線輸送との乗り継ぎ拠点までの交通手段の確保に努めます。」の文言を加えたほか、「事業主体」を「実施主体」に、「(実施主体：男鹿市)」を加え、「運営主体」を「実施主体」と変更したほか、(3) 鉄道との連携の次に「(実施主体：男鹿市、バス事業者)」を、(4) の乗継施設の整備の次に「(実施主体：男鹿市)」を、(1) 公共交通の利用促進それから(2) 住民への啓発活動の次に「(実施主体：男鹿市)」をそれぞれ挿入したものであります。

12 ページをお開き願います。

12 ページにおいても、(1) 公共交通空白地帯における公共交通の導入の次に「(実施主体：男鹿市)」を、(2) のスクールバスの活用の次に「(実施主体：男鹿市)」を、○ 観光客の利便性確保のための交通手段等の導入の次および○ NPO等による自立した公共交通システムの仕組みづくりの次にそれぞれ「(実施主体：男鹿市)」、「(実施主体：地域住民組織・NPO等)」を挿入したものであります。

以上が、2月5日に送付しました連携計画の素案と、今回作成いたしました連携計画(案)の主な変更点であります。以上簡単に変更の部分だけを説明させていただきました。

○ 木村会長

ありがとうございました。総合連携計画素案から連携計画(案)への変更点について説明いただきました。新旧対照表で示してありますけれども、全般的に変更点も含めてご質問あれば伺いたいと思います。

まあ、いくつか変更点あると思いますが、男鹿市が計画の策定主体となることや、最新のデータに変更した点や実施主体を明記したこと、などが変更点としてはそういったところだと思います。対照表の3ページの一番下のところに実施主体：地域住民組織・NPOと書いてあるのは、他のところが実施主体：男鹿市とか実施主体：バス事業者とあるのとは違って、地域住民が事業主体となることだと認識してたんですが、これに関して、男鹿市が全く関与しないのか、どういった関与の仕方をするのかというのは、どういう考え方なのかは、計画中のものがあればお聞かせ願いたいんですが。

○ 事務局 原田

今のところ、実は公共交通に関するNPOというのは、私が把握している限りは、男鹿市内にはございません。ただ地域によりましては、タクシー会社とか既存交通事業者さんがないところもかなりありますので、そういった地区では公共交通をどうしても利用しなければならない方が居られるような場合は、地域全体でカバーしていくといった方向も出てくるのかなとは考えております。そうした中で市の方がPRをしていくと。市が市域全体の公共交通をカバーできればいいんですが、どうしても市がやる仕事というのはお金もかかってまいります。地域で公共交通を利用する方がどのくらいおられるのか、そういったことを詳しく把握できるのは、地域の方が一番だろうと。そのためには地域の方々の意識の醸成といったことが非常に重要になってまいります。そういった面で市が関与することができるのかなと考えております。また、NPO担当部署が市にありますので、NPOの設立ですとか、交通事業の申請などについて側面から援助できるものと考えております。

○ 木村会長

まあ、側面からとか色んな周辺の部分で色々サポートしていただけるということですね。

○ 事務局 原田

当面、短期事業といたしまして、22年23年につきましては今の交通体系を基本的に維持する形になりますので、そうしますとやはり市がカバーしなければならない部分が出てきますけれども、地域の皆様の意識的なものが醸成できれば、地元でやろうといった声も高まってくるという風に考えております。

○ 木村会長

主体が明確になっていて、主語がはっきりした計画になったということだと思います。何か質問等ございませんでしょうか。

○ 男鹿中振興会 武田副会長

(2)のフィーダー輸送区間、11ページにあるが、具体的な路線の段階のような状態だと思いますが、どのような形になっているのか。

○ 事務局 原田

ただ今のご質問ですけれども、連携計画の 14 ページに短期事業計画の全体の図面が載っておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

主に男鹿中線の方のご質問と思いますが、現在中央交通さんが運営している男鹿中線ですが、これは、浜間口から中間口を通り、三森、仁井沢を通りまして、馬生目、男鹿北公民館、羽立駅を経由して、男鹿みなと市民病院までという路線であります。

ただ、この路線に関しましては、ご承知のとおり朝 1 本夕 1 本ということで利用の方が極めて少ない状況で運営している状態です。平成 22 年度以降に県の補助制度が変わりますと、この路線は補助を受けることができない路線となってしまいます。ただ、地区の方が必ず利用されるという前提がありますので、これに関しましては、まず市が事業主体となって何らかの形でカバーをしていくということにしている路線であります。

具体的なやり方ですが、まず、詳細はまだ決まっていませんけれども、男鹿北線という幹線を生かすという形で繋げていこうということであります。具体的に申し上げますと、浜間口、中間口からは男鹿中公民館までの路線としたいと。また、開、三ツ森の皆様については、昨年の地域説明会の内容に基づきまして、五輪野台というバス停がございますので、そちらの方で結節をして男鹿北線に乗り継いでいただく方法。馬生目は男鹿中線の沿線なんですけど、こちらに関しましても、船川北公民館あるいはその最寄のバス停までなんらかのかたちで、例えば乗合タクシーですとか、デマンドですとか、そういった形でつないでいくという風なことを考えております。

これに関しましては、今回の連携計画が承認されますと、来年度 1 年間を準備期間としておりますので、その間に地元の皆様に、どういった経路を通るかとか、どういった運賃体系になるかとか、運行ダイヤ、1 日に何本走るかとかいったあたりをご相談しながら、22 年度以降の実証運行につなげてまいりたいと考えております。

○ 男鹿中振興会 武田副会長

分かりました。よろしくお願いします。

○ 木村会長

その他、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○ 県建設交通政策課 眞柄主査

質問というわけではないんですけども、計画を拝見した感想なんですけど、私も県の建設交通課ですけども、他の地域の色んなこういう連携計画も拝見しておりまして、今回男鹿市さんの連携計画の案を見ておりますけれども、他の地区に比べても非常に良くまとまったいい案だと思っております。

実施主体も追加されましたし、この地域が何時からどういう風にしてやるのかという大よそのイメージも市民の方にもイメージしていただけるのかなと思います。

それで来年度以降この地域に一体どういったものが合っているのかという具体的な話になっていくと思うんですけども、正にそこからが本当のスタート地点なのかなと、ということで、県としましても、できること、色んな補助制度の支援も含めて、できることはさせていただきますけれども、まず地元のみなさんの頑張りがなければ、中々いいものがないと思いますので、是非みなさんも頑張ってくださいと思います。

○ 木村会長

ありがとうございます。お褒めの言葉をいただきましたが、地区ごとにどういう風な手順でどういう風な交通体系にするかということが明記されている、これから各方面から支援いただけるということだと思います。

他にご質問、ご意見、今のようなコメントでも結構ですので出していただけませんか。

○ 北浦地区郷中会長連合会 石垣会長

14 ページの交通計画の図の一番目の囲みの中の 5 つ目の項目に「市職員、企業、住民に対し、公共交通の利用促進を図る仕組みを検討・実施」という項目あるでしょう。私は 75 歳になって運転免許を返上して、今はバスでもってあるいている。先だって県庁に行って、私に券だすのかと聞いたら、秋田県ではまだ条例がないのでだめだということであった。去年からそれができて、今免許を返上すればバス利用券をくれるということで、大変よいことだなと思っています。

この項目ですね、実際に、具体的に今交通がバスが大変だということを説明会で話しているけれども、この表を見れば 2 人とか 6 人しか来なかったと、全体では 268 人来ているんだけど、広報も回っているんだが中々しっかり読んでいないのではないかな。もう少しバスを利用してもらうようにしないと。私は今日もこれ終わってからバスで帰るが、この間も 1 人か 2 人より乗っていない、実際は。だから、もっとバスに乗るようになることとか、色んな交通機関があるわけですけども、PR してもっと関心を持ってもらわないと、委員会に来れば予算とか色々見れば大変な内容になっているんだだけ

ども、一般の人はそこまでピンと来ていない。ですからもっとなんとかPRして関心を持たせなければと感じております。

○ 木村会長

ありがとうございます。やはり地元の方の関心を高めるのが大事ということですが、事務局の方で仕組みについて何か具体的なものは考えておられるでしょうか。これからということでしょうか

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

そうですね。市職員に対しては難しい話になるんですけども、まあ、ノーマイカーデーですとか、企業を巻き込んだものがないのかなということを考えているわけですけども。さきほど石垣委員から指摘されましたように、地域での集会ですとか、そういうものを捉えながら、PRしていくとともに、今度、より地域の実態に即したリーダー的なものもできますし、そうなれば今までの路線形態と違いまして、より実態に即したという中で利用もしやすくなるのではないかと考えております。

○ 木村会長

これは行政だけがやることではなくて、色んなセクション、色んな分野で、やることだと思いますので、そのあたりの動きを仕組みに生かしたいと思いますので、何かご提案とかないでしょうか、ここではこういうことをやってますよというような、もしございましたら、ご発言いただきたいんですが。情報があれば、あまり関心は持ってないけれども、そういう状況であれば私ももうちょっと公共交通を使って見ようかというような方が少なからず居られて、その人たちに伝わるような、色んな情報発信をするだけでも効果があると思いますけれども。

平成 22 年度からですけども、行政と民間企業、住民が連携して利用促進を図るということで、例えばTDMという交通需要をうまく心理的に働きかける施策というのが色々事例としてもありますので、そういうものをそういう組織を作って、色々働きかける方法もありますので、それで、男鹿市として何ができるかということをこれからまた検討していただければと思いますので、よろしくお願いします。

その他、ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

○ 男鹿市商工会 二田事務局長

今、県の方からお話がありましたように、私もこの生活路線に関しては、色んな意見が取り入れられているのかなと思っていますけれども、ひとつ観光客の利便性といったようなことについて、今回も短期ではなく中長期ということになっていますけれども。この間何かの話で、都会の方々は免許を取る方がこれからどんどん少なくなっている。車の免許はいらない、車を利用しないという人が増えているという話の中で、そういうことを考えると観光とか、例えば秋田駅に降りた人たちが男鹿に来れるようなシステム、今の実態で言えば、非常に少ないといったことはあるんですけども、ある程度はそこから辺を考えながら、来年度あたりは短期間の計画的なものを若干入れてもらえれば、大変ありがたいなと考えております。

○ 木村会長

事業スケジュールと中長期の関係でしょうか。その辺はむしろ商工会あるいは観光協会の方でもうやっていますよと。

○ 男鹿市商工会 二田事務局長

いずれ、そういう風な時代に入ってくるのがもう目の前に来ていると考えている。我々も認識しなければいけないのかなというのがありますので、そういうものを想定しながら、計画は早めにやった方がいいのかなと観光の面でも考えてるんですけども。

ただ単純に、12 ページにも書いてますけれども、観光遊覧船と連携してというのは、計画そのものというよりは試験的にやってみるのもいいのかなと考えているところで。観光客の流れも把握しながら、より多くの人から観光遊覧船を使って気軽に男鹿の風景を眺めることができるという風に持っていけるかというように考えています。是非、試験的に1ヶ月でも2ヶ月でもやってもらっても面白いのかなと考えています。

○ 木村会長

ありがとうございました。

○ 男鹿市議会総務委員会 大森委員長

私、いつも思うんですけども、走行時間のスピードアップといいますか、今度こういう形に行きますと、民間輸送の視点になりますと、今男鹿中の地域が中央交通さんですが、今度NPOなり市なり運行するシステムになりますと、早い時間帯にスピードアップするわけですね。だけれども、幹線を走るバスというのは、所要時間が長いと。で

すから、例えば病院を利用する、買物を利用するといっても、距離が長いとかなり早い時間帯に乗らなきゃいけない。到達時間が長いということです。今これほど道路が整備されておるんですけども、しかもまた乗客する場合も立ち席というのが今ほとんどありませんね。ほとんど座席指定みたいな形。それでもやはり、交通規則の中でこれしかスピードは出してはいけませんという、そういう規定になっているものなのかどうか。

○ 秋田運輸支局 佐藤首席運輸企画専門官

スピードはですね、法令速度がありますので、それから乗降のための時間がかかる、それからバスは特に車内事故があるもんですから、バスがバス停に止まってから座席を立てて降りるという風にしてもらっています。そのため乗り降りに結構時間を要するという風になるもんですから、それぞれの停留所で乗降があるとした場合は、相当の時間がかかるというダイヤの取り方をしているもんですから、結果的には結構かかるようなんですね。それからもう一つ別の背景としては、道路が混雑して渋滞しているような場合に、そのダイヤをちゃんと守るためには、常に早い時間帯でダイヤを設定するというのは難しいところがありますね。ですからバス事業者としては、安全を確保するために所用の時間がかかりますというところから、後、実際走行してみてですね、ある程度平均値を出しながらということで、今はダイヤを作ってます。それが一つですね。

それから今言われた乗り継ぎのためにですね、乗り継ぎということになれば、主要なバス停のところに別の方法で集まってもらうとなれば、そこでの待ち時間というものも出てくるということで、利用される方には不便をかけるということにはなりますけれども、バスを基本的に走らせるという前提でいきますとそうなると思いますね。

後、一番多いのは、それぞれが自分の目的地に乘換えなしで行きたいという希望はあるんですけども、全部それをかなえるようにするということは、いろんなところへ色々な走り方をする、結果的にはタクシー的な利用のされ方なんです。そうすると公共交通としては事業としては中々成り立たないというようなことがありますして、今バス事業者さん、タクシー事業者さんでそれぞれに、乗合タクシー的なこととかですね、いろんな目的地にあわせたような乗り合いのメニューを作ったりしてるんですけども、どうしても、総体の人口が少なくなってきました。そして利用される方が高齢者の方とか体の不自由な方も含めているもんですから、そこに対応するというところでいけば、この交通が何を中心として、どういうお客さんが乗るのかというところから議論を進めてもらって、病院へ行くというのであれば、病院専用のダイヤですね。それからもう一つは他のほうで、鉄道であるんですけども、乗るときに病院の予約ができるような、そういうよう

なことの組み合わせで結果的には乗る時間、要は早く予約しなければならないので早く出て行く、そこを別な方法でバスに乗った時点で予約できるようにすれば、使い方も変わってくる。それぞれ一つずつではなく、トータルで見ていくようなことをこれから皆さんですね、検討してもらって本当に使うこと、ですから、あればいいというバスではなくて、自分たちの足をどう守るかというスタンスですね、色々議論してもらえればと思います。

○ 木村会長

安全ということの定義が大事だと今おっしゃったと思います。中央交通の斉藤部長さん、そういった意味でまだスピードアップする余地というのはあるものでしょうか。

○ 秋田中央交通株式会社 齊藤営業本部長

中央交通の齋藤です。今支局の佐藤さんにおっしゃっていただきましたが、今年間おこっている人身事故のほとんどが車内事故、いわゆる発車するときにちょっとぶつけるとか、あるいは、ご高齢の方、今我々はかならず座ってくださいとお客様にお願いしているんですけれども、ご高齢の方というのは他の人ご迷惑をかけたくないので少しでも早く降りたいとバス停に近づいて来ると立って近づいて来ます。運転者もそれを見ているんですが、基本的には前を見て運転していてブレーキをかけていくもんですから、やはりご高齢の方が支えきれなくて倒れて転倒なされると。結果として足腰をいためて病院に通っている方がさらに悪化させるといった事故が非常に多いんです。

ですからその辺を考えると、法定より若干少なめあるいはその曲がりくねったときには、乗用車にはかなわないようなスピードで走らないとやはり、我々は安全を第一にさせていただいてますので、その辺をなんとかご理解いただければ、やはりスピードよりも安全を重視させていただきたいなと思っております。たださきほどおっしゃった時間に合わせるというのも非常に分かります。我々はある意味従来の走り方というのは通勤通学一緒くたにダイヤを組んでいたわけですが、これからはフィーダーの方々がつく時間、当然病院に行く時間、それから駅に行って通勤、通学の方々が行く時間とか色々あると思いますので、今までは色んな情勢を見ながらも、ある意味我々が主体となってダイヤを組んできた部分がありますけれども、今後この男鹿市内の公共交通の中ではフィーダー路線とのつながりをきちっと考えたダイヤは組んでいかなければいけないなと思っております。その辺逆に色んな方のご意見をお伺いしながら、いわゆる乗りやすい、乗ってよかったなというようなダイヤを組むことも考えて行きますので、その

辺逆に皆さんのアイデアを教えていただければ、大変ありがたいなと思っています。

○ 木村会長

ありがとうございます。そういった要望やニーズについてお互い情報交換することがまず大事で、その中でバス事業者さんもそういう確認をしていただけるということで、ありがとうございました。

その他、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

ご意見、ご質問などいっぱい出していただいて、変更点の説明もいただきましたので、これでよろしいということであれば、もし、ご意見、ご質問等なければ、ここでお諮りしたいと思いますが、男鹿市公共交通総合連携計画（案）については、ただいまの案で決定してよいかお諮りいたします。ご異議ございませんでしょうか。

「異議なしの声あり」

ご異議がないようですので、男鹿市公共交通総合連携計画（案）は、この案で決定し、男鹿市長に送致することといたします。ありがとうございました

それでは次の議題に移ります。(3)平成 21 年度事業計画（案）についてであります。事務局から説明願います。

○ 事務局 原田

それでは、平成 21 年度事業計画（案）についてご説明を申し上げます。

資料 4 をご覧ください。

項目につきましては、会議と事業に仕分けをしてございます。

まず、1 の会議につきましてご説明を申し上げます。平成 21 年度はご覧のとおり、3 回の総会開催をお願いしたいと思っております。

第 1 回総会におきましては、決算の認定および繰越金の確定に伴う補正予算の協議をいただきたいと思います。第 2 回総会におきましては、連携計画に基づく公共交通体系再編のための平成 22 年 4 月からの路線廃止が伴ってまいりますのでその協議をお願いしたいと思います。また平成 22 年度補助事業（実証運行）の具体的な事業計画といったものの協議を行っていただきたいと思います。第 3 回総会は年明けになろうかと思っておりますが、具体的な平成 22 年度補助事業の申請内容および平成 22 年度の事業計画・収支予算案を協議いただきたいと思います。思っております。

開催時期は、第 1 回は平成 21 年 6 月、第 2 回は同 8 月、第 3 回は平成 22 年 2 月頃をそれぞれ予定しております。

次に、事業につきましては、連携計画では、今回承認いただきました（案）ですが、平成 21 年度を市内公共交通の再編のための準備期間と位置付けております。主に平成 22 年度において実証運行の対象となる地区を主体にいたしまして、地域への説明会を開催して、運行経路とか運行時刻、運行回数、運賃等について詳しい協議を行い、併せて市内交通事業者との調整や市が行う有償運送の路線申請がでてくるかと考えております。22 年の 3 月につきましては、地域公共交通活性化・再生総合事業を活用した実証運行の申請準備等を行い 4 月からの実証運行の開始といったことを考えております。

すみませんが、収支予算案も説明したと思いますがよろしいでしょうか。

○ 木村会長

ご説明お願いいたします。

○ 事務局 原田

次に、平成 21 年度収支予算（案）についてご説明いたします。

資料 5 をご覧下さい。

平成 21 年度の収支予算案ではありますが、先ほど事業計画でご説明いたしました、3 回分の総会開催経費と説明会等の P R に要する費用を見込んでおります。

最初に収入についてであります。

平成 21 年度の歳入につきましては、市からの負担金 500 千円こちらは、市議会 3 月定例会に補正予算を提案いたしまして議決をいただいております。また、見込みですけれども本年度の剰余金 200 千円を見込んでおります。合わせまして 700 千円の歳入を見込んだものであります。

支出に関しましては、主に平成 21 年度開催予定の 3 回の総会費といたしまして 569 千円、それにかかります消耗品、P R 用の市広報等の印刷費、そういったもの 131 千円といたしまして、支出合計を収入合計と同額の 700 千円を見込んだものであります。

以上が収支予算（案）であります。よろしくお願いいたします。

○ 木村会長

ただいま、平成 21 年度事業計画案と収支予算案を併せて事務局から説明いただきました。

事業計画案につきましては、3回の協議会総会それから幹事会、それに関連する収支予算案でした。

ご質問ご意見等ありましたらお願いいたします。

事業で地域説明会5月に開催とありますが。

○ 事務局 原田

次年度補助申請をするということになりますと、どういった運行経路をとるかとか、運行回数が決まりませんと事業費が出てまいりません。9月までには事業規模を決めまして、さらに事業者の選定をいたしませんと翌年度の事業申請にからんできますので。複雑な話になりますが、市がバスを購入し運転手も雇用しといった完全に市が事業主体となった場合は、路線の申請は市がいたしますが、運行を業者に委託した場合、委託業者が路線の申請をすることになります。そうしますと、事業費の決定と業者選定を急がないと平成22年度以降の補助事業申請ができない。その意味で5月と申しましたのは4月の様々な行事が終わってから、まあその間に市としてはこういう風にしたいという原案を作成いたしまして、主に22年度から路線運行を市で行うところを中心に説明会を開催して、例えば運賃、運行経路、運行回数などを協議しながら、事業の概要を決めて参りたいと思っております。

それが決まりますと、協議会にお諮りして事業全体の説明をしたうえで、委託業者の選定に入っていきたいという流れであります。

地域説明会については可能な限り早くはじめたいということであります。

○ 木村会長

先ほど話しがありませんでしたが、どこを走るかとか、どういう降ろし方をするかとか、市として提案してご意見をいただいて、それを踏まえて協議会に提案いただくという流ということですね。

なにかご質問等ありますでしょうか。

さきほどご質問でもありました、公共交通の利用促進に関する啓発活動ですが、その経費は協議会以外のものも含めて考えておられるのか。

○ 事務局 原田

市の方でも企画費の方に交通関係の予算がありますので、そういったものでいくらか

対応可能です。今のところ具体的にものは市広報での連携計画の掲載、同じものはホームページにも載せてまいります。来年になりますと市としての具体的な運行案を載せていくことになるかと思います。主に印刷製本がメインと考えております。

○ 木村会長

啓発活動というのは、そんなにお金がかからず、まあ、手間がかかるという形ですね。利用促進のために何をしなければならないのか、お金はそれほどかからないかもしれないけれども、最初から計画を組んでおかないと中々動かないと、ということがあるので、この協議会の中の予算としては十分ではないかもしれないけれども、何か 21 年度の中で何かやれないものかなと思うんですが、とりあえずこの予算書の段階ではあまりはつきりしないんですが、いかがなものでしょうか。

そきほどの発言にもあつたとおり、啓発活動について色んな方から協力いただいて、それが結果的には市民の方の意識の変化につながるといいますので、これから具体的にやり方を検討していただければと思います。

○ 北浦地区郷中会長連合会 石垣会長

4 ページの表にバスの乗客の数字があるが、私もバスに乗るとき乗客になるべく家の若いものの車に乗らないでみなと病院までバスが出てから、1 人だの 0.何人だのいう状態ではバスは止めなければならない、関心持ってもらわなければならないという話をバス中でしてくるわけですよ。そういうようなことを具体的にですね、これ見れば 1 億 4 千万円の中で、3 千 500 万円が業者の負担になっていると。赤字なんだと。こういうことを市民に浸透させないといけな。なんとして P R すればいいのかといったことを常に感じている。補助金もあるわけだけれども、こんなにかかっているのかというような具体的なことを市民に周知しないと、なるほどと思わない。今の P R の件と関連して感じました。

○ 木村会長

そういう意味で情報が行ってないのであまり意識が高まらないだけ、知ればいろんな動きがあるということだと。経費的には印刷費だけとかであれば、さほど懸からないので、必要なこととして考えていくということですね。

○ 男鹿中振興会 武田副会長

今、北浦の石垣さんからバスに乗ってもらいたいと周知する必要があるという話があったけれども、便利性というものを考えればやはり車を手段として選ぶわけだけれども、変わってくればバスの乗り継ぎとか色々な場合が出てくるとは思います、協力し合い、お互いに寄り合うというような形で、今後、もし市の方でできるとすれば、広報の中にバスに乗りましょうとか、今こういう状況であるから皆で協力してやりましょうという方法を知らせるとするか、出してもらえば、少なからずとも認識が出てくるのではないかと考えていますけれども、その点を市においては、なんとかお願いしたいと思います。

○ 木村会長

ありがとうございます。何かご意見とかそういったものはないでしょうか。

○ 男鹿市商工会 二田事務局長

今の件に関連して、先ほど秋田運輸支局の佐藤さんから、バスに乗った段階で病院の予約ができるという話を聞き、いいアイデアだなとびっくりしている。病院もお客さんが少ないということを考えれば、多分早く受付をしたいというのが、年配の人たちの気持ちであると思う。

そういう通常考えられないようなアイデアを今聞いて面白いなあと思っているんだけど、事例というのはあるものでしょうか。

○ 秋田運輸支局 佐藤首席運輸企画専門官

鉄道では事例がある。鉄道と他の乗り物を利用して病院を利用した場合、鉄道に乗った時点で次の部分予約も全部してくれると、いうことをやっているところがあります。バスに乗った時点で、予約することの順番待ちの部分があるといったことを考えた場合、それから帰りの部分で、病院が終わった後で、薬局と離れているところがある。薬局がそもそもない場合もありますから、健康な人でも大変ですから、病院から薬局まで移動して帰るところから言えば、薬局さんでどのくらい時間がかかるか分からないんで、相当次のバスに乗るために待ってもらわなければならないことがあるんで、そこら辺の仕組みをみんな協同でですね、例えば今回バスのことだけ考えていますけれども、病院とか薬局それから利用者、地域人方が色々連携を取って、ですから、先ほどの協同というのが正にそういうことになってくるんですけれども、NPOがいいということではなくて、それぞれがいろんな負担をしながら、例えば、今回バスを走らせるときに、法定協議会の中でバスを走らせましょうとなったときに、今までは県と市とバス事業者の負担でや

ったんですけれども、それを地域の関係者が、バス事業者の負担をみんなで見るから、引き続きバスを残してくださいと、そういうことも実はできるようになったんです。

ただ、中々スポンサーがいませんのでね、難しいんですけれども、そういうところから地域が自分たちの足を、誰が守ってくれるかといったときに、自分たちで守らなければならないとなれば、そういう風なやり方をやりながら、みんなでね、バスがなくなってから議論してももうだめなんですよ。今あるうちに色々考えてもらわないと、なくなったらどうするということを念頭に入れながら、乗り換えというのはすごく不便にはなってくるんですが、どうするかも決まっていない段階ですから、それをどうするかは色々。で本当に使う人が、一人ずつルートの線引けば見えてくるんですよ。ただ、そこには今までの便利さをちょっと我慢してもらおうというのが出てくると思います。

○ 県建設交通政策課 眞柄主査

県内では、矢島の由利高原鉄道と本荘第一病院が連携して、駅舎で受診したいと言った場合、駅舎の人がファックスで本荘第一病院までこの人が受診しますとファックスして、そうすると、第一病院の方で診察券を入れたのと同じ状態で利用できる。

○ 木村会長

自治体の病院に通われる方とかそれに関わっている方の援助が必要とそういうことですよね。

そういった創意工夫を出してもらうためにも情報を発信していくと、そういう取り組みを是非していただきたいと思います。

もし他にご意見ないようでしたら、議事の3番4番、計画案と予算案ですね、合わせてお諮りしたいと思いますが、この二つの案件についてご異議ございませんでしょうか。

「異議なしの声あり」

ご異議がないようですので、計画（案）予算（案）については、この案のとおり決定いたしました。ありがとうございました。

○ 木村会長

本日は様々なご意見をいただきありがとうございました。男鹿市公共交通総合連携計

画につきましては、本日ご承認いただきました連携計画（案）に基づき、市が連携計画を策定することとなっておりますが、計画にそって今後の事業を進めさせていただきたいと思います。

それでは、ここで議事を終了いたします。長時間に渡る審議ありがとうございました。事務局の方でその他何かありましたら。

○ 事務局 下間企画政策課長（事務局長）

その他でございますけれども、先ほど原田からも申し上げましたが、恐れ入りますけれども、本日分の保報償費及び旅費につきましては、大変申し訳ございませんけれども、補助金の入金後お支払いいたしますので、よろしくお願いいたします。以上であります。

午後 3 時 00 分閉会

署名

会議の次第を記載し、これに相違ないことを証明するためここに署名する。

平成 21 年 月 日

会 長

委 員

委 員